

私たちは現在、温州ミカンの品種である肥のあすかの高品質化を目的に研究に取り組んでいます。

1 研究の背景

私たちの住む天草は海に囲まれ、かんきつの育成に適した場所です。しかしながら熊本県内のほかの地域もかんきつが盛んであり、日本全国、世界に目を向けるとより有名で知名度のある柑橘類が多く、競合も激しいです。これから天草の農業を活性化させるためにはその中でどのような工夫が必要か考えていく必要があります。そのためにもまずは天草拓心高校からできる限り天草地域のかんきつをもっとPRできないかと考えました。

また、現在少子高齢化や子どものフルーツ離れなど果樹生産と消費量低下という問題もあり、これらの事を解決、または微力ながら貢献できないかと考え課題研究に取り組むことにしました。

2 研究の目的

今回の研究の目的として大きく2つあります。1つは天草のかんきつの高品質化に貢献すること、2つめは将来的な果実消費量の増加です。まずは天草拓心高校で栽培している温州ミカンの品種である肥のあすかに絞り、栽培方法や販売方法について考えることとしました。

3 目的達成のために成功の鍵となる要因

現在、日本の果実は贈答用など高級なイメージを持つ物が多いと思います。やはり果実を食べると言うことは特別感があることに間違いありません。しかし、それでは果実の消費につながないと私たちは考えました。商品のカテゴリー分類には3つの分類があります。1つはそもそもの機能で価値がはかれない高価格な専門品（ラグジュアリ）、価格・規格で売れる低価格の最寄品（コモディティ）、その中間であり、指名買いされることの多い買回品（スペシャリティ）です。天草拓心高校では低価格でありながらも高校で生産されたというプラスアルファの価値があることに着目し、スペシャリティに位置づけられる果実生産に取り組もうと考えました。プラスアルファの部分として今年度取り組んでいるタイベックシートを利用した高糖度ミカンの育成や今後は着果ストレスを利用した高糖度ミカン、さらにはそれらを用いながらも継続的に収量が期待できるような持続的生産目標に、今後はさらに果実の持つ機能性成分で購買意欲を高めての販売にも力を入れていきたいと考えました。また、果実をより身近にし将来の果実消費量向上のために子供たちの食育教育にも力を入れていきたいと考えています。

4 製品の説明

私たちの果樹園は本渡市を一望できる潮風の当たる元泉果樹園で果実栽培をしています。また、高校で生産している果実は価格も低く、果実の消費拡大に大きく貢献する事もできると考えます。また、地元の食育教育の題材にも適しているという強みも持っています。

5 研究の目標

まずは高品質ミカンの栽培を持続的に確立し、販売方法をスペシャリティに特化して販売します。また、それを活かして幼稚園との交流を通して、食育教育を充実させ、将来の果実消費量に貢献したいと考えています。今年はタイベックシートの比較調査を土壌水分計やECメーターを使って、数値で比較します。

6 活動計画

活動計画スケジュールです。令和2年度、3年度、4年度

7 今後天草の地域から果実の魅力を発信したい。消費拡大に貢献したい。

以上で発表を終わります。